

教育研究業績書

令和3年5月1日
氏名 楠原 竜也 印

研究分野	研究内容のキーワード	
人文学・社会科学・複合領域	芸術学・教育学・身体教育学・子ども学	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 作成した教科書、教材	平成 18 年 4 月 ～ 現在に至る	文化庁や東京都事業等において、学校、保育施設、地域での子どもたちとの身体表現活動、ならびに、公演演出振付指導の事例を取りまとめた教材を作成し、授業において活用している。
2. 教育上の能力に関する大学等の評価	平成 18 年 4 月 ～ 現在に至る	大学において実施されている学生による授業評価アンケートによると、本人が担当の授業は、いずれも平均 4.5 以上の高い評価を得ており、学生の満足度が高い結果となっている。
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 19 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 20 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 21 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 21 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 23 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 23 年 4 月 ～ 現在に至る 平成 23 年 4 月 ～ 現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人 芸術家と子どもたち ASIAS 事業 (Artist's Studio In A School) 幼 保 小へのアウトリーチ 身体表現 / ダンスワークショップ (WS) 講師 ・ 豊島区 子どものための文化体験プログラム事業 派遣型 WS にて、幼 保 小へのアウトリーチ 身体表現 / ダンス WS 講師 ・ アーツカウンシル東京 パフォーマンスキッズ トーキョー (劇場 学校 児童養護施設) 小学生等対象の身体表現 / ダンス WS 講師・ 公演演出振付・学芸会学習発表会指導 ・ 財団法人地域創造 公共ホール現代ダンス活性化事業登録アーティスト 幼保小中へのアウトリーチ等 身体表現 / ダンス WS 講師 ・ えぞこホール (仙南芸術文化センター) 宮城県 ほか主催アウトリーチ事業 小中高・大学へのアウトリーチ身体表現 / ダンス WS 講師・公演演出振付 ・ 文化庁 文化芸術による子供育成総合事業 小 中学校へのアウトリーチ 身体表現 / ダンス WS 講師 ・ 文部科学省 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業

	平成 29 年 4 月 ～ 現在に至る	小学校、特に特別支援学級へのアウトリーチ 身体表現 / ダンス WS 講師 ・文化庁委託事業 戦略的芸術文化創造推進事業(地域での、共生社会実現に向けた、児童青少年から広がる障害のある人、女性、高齢者等の地域の全ての人のための文化芸術体験事業)「体験ワンダーランド」
	平成 30 年 4 月 ～ 現在に至る	身体表現 / ダンス WS 講師・プロデューサー ・横浜市 芸術文化教育プラットフォーム 体験型スペシャル版「スクール・オブ・ダンス」 小学生対象の身体表現 / ダンス WS 講師 公演演出振付
4. その他		特記事項なし。

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	平成 25 年 9 月 平成 25 年 9 月	幼稚園教諭一種免許状 免許状番号：平二六幼一第六〇号 小学校教諭二種免許状 免許状番号：平二六小二第八六号
2. 特許等		特記事項なし。
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	令和元年 8 月	公益財団法人東京都歴史文化財団連携事業 学校と文化施設をつなぐ「ティーチャーズプログラム 2019」 『E 東京芸術劇場 ワークショップ事業 ダンス・ワークショップ体験』 教員対象の身体表現 / ダンス WS 講師
4. その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				特記事項なし
(学術論文等)	単著	平成 29 年 3 月	玉川大学芸術学部 芸術研究8 玉川大学芸術学部 研究紀要2016	1 年次必修科目「身体表現 <ダンス>」において、「ダンスを通して人と関わり合いながら、コミュニケーションスキルを身につける」ことを重視した授業の実践記録。その結果、授業における取り組みが、他者とのやり取りや相互作用の重要性や関心を高め、今後の学修

				へ向け、コミュニケーションへの意識を高くすることができた。そして、放課後の集中授業を含む実習授業「パフォーマンス」へのファーストステップとして位置付けられることを明らかにした。 (pp.123-131)
(その他) 1. 児童養護施設等における被虐待児や障害児へのアートを通じた自立支援活動 ～アーティスト・ワークショップの記録事業紹介～	共著	平成 28 年 9 月	NPO法人 芸術家と子どもたち	平成27年12月から平成28年7月まで、「公益財団法人三菱財団」の助成を受けて、都内児童養護施設2か所と障害児入所施設1か所で実施したワークショップの記録。その結果、他者と関わり合いながら、ものの見方や考え方の多様性を認め合う経験を重ねることが、子どもたちの可能性を伸ばし、自立の基礎となる生きる喜びにつながるために、重要であることがわかった。
2. 学校・地域で取り組む「文化プログラム」事例・ノウハウ集	共著	平成 30 年 2 月	文化庁	発展型の文化プログラム(PKT(パフォーマンスキッズ・トーキョー))での身体表現/ダンスWS、公演演出振付指導の事例を紹介。 タイトルは、感性を働かせて、身体でつくる「ダンス・コミュニケーションで輪が広がり、和が生まれる」 身体表現のアーティスト(外部講師)として行なっている実践を、学校等で教員が実践できるように、実施内容・開始手順等とともに具体的に示した。
(学会発表・ポスター発表) 1. タイミングの可視化 —視覚を閉ざした状況での粘土造形ワークショップの実践を通	共著	平成 29 年 8 月	平成 29 年度 第 56 回大学美術教育学会全国大会	視覚を閉ざした粘土協働制作によって、「タイミング」という抽象概念の可視化を試みたワークショップ実践の報告。東京学芸大学大学院美術教育科にて、Arts Based Research

して				(ABR)を基に、WSを企画する授業の一環で行われた。実践と記録が並行した、ABRによる取り組みだからこそ、タイミングという抽象概念を、参加者と第三者の両視点から可視化できることを示した。
----	--	--	--	--